

平成 30 年 6 月 18 日現在

機関番号：37111

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02157

研究課題名(和文) 戦前の日中美術交流に果たした台湾画家の役割——東アジア美術の視座から

研究課題名(英文) Taiwan Artists in Pre-war Sino-Japanese Artistic Relations: East Asian Perspectives

研究代表者

羽田 ジェシカ (Lyu-Hada, Jessica Tsaiji)

福岡大学・人文学部・非常勤講師

研究者番号：60719102

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の主な成果は以下の通りである。

1) 戦前の移動する台湾関係の画家たちについて、関連する一次資料と作品を新たに発見し、戦後特有の状況で形成された美術史観をクリティカルに検討し、国別美術史の境界を超えた創作当時のコンテキストの中での考察を行った。彼らを当時の東アジアの時空に置き直し、彼らが果たした美術史的役割を明らかにした。2) 国際研究集会を主催し、国内外の研究者と協力して、巨視的アプローチで台湾関係の画家たちと漢字文化伝統を共有していた東アジア他地域の「移動する画家」の活動を比較考察した。3) 本研究の成果を学術誌および国際学会で公表し、主催した国際研究集会の成果を論文集により公表した。

研究成果の概要(英文)：The research focuses on the historical significance of the Taiwan related artists whose careers were carried on beyond borders by the end of World War II. The project uncovered previously unknown first hand material and artwork to make critical analysis of the post-war art historical viewpoint that was filtered by post-war sociopolitical situations, and that was shaped by the political boundaries drawn after the war. The project thus placed the artists back into historical context, reevaluated the artists from the contemporary perspectives that were reconstructed based on concrete contemporary evidence. The results were presented in conferences and academic journals and an international colloquium organized by the leader of the project. The colloquium conducted a comparative study of the East Asian artists who were active beyond borders and shared the same Sinosphere heritage with the Taiwan related artists. Proceedings with ten academic papers were published to sum up the project.

研究分野：美術史

キーワード：台湾近代美術史 中国近代美術史 東洋 移動する画家 日本台湾中国関係 華人 東アジア美術 美術交流

1. 研究開始当初の背景

近年、様々な分野において、東アジアの近代を漢字文化圏という枠組みのもとで巨視的に考察する必要性が意識されている。文明史や学術史の観点からは、近代中国における伝統の再創作と日本との関係が論考されるようになった。しかし、美術史においては、「東洋」概念の美学的、美術史的な変遷と展開については、日本の視点からの論述があるのみである。中国、台湾の近代美術と日本の「東洋美術」概念の関係、各地域近代美術と「漢字文化圏の書画伝統」の関係の比較研究など、重要な課題が多く残されている。

近代中国美術と日本との関係、とりわけ中国における日本経由の西洋美術受容の様相については、留学生の基礎資料および彼らが日本語から中国語に翻訳した美術書籍を主な対象として研究がなされて来た。しかしこのテーマの研究層は必ずしも厚くなく、日中関係に関する研究も水墨画を中心に行われ、洋画に関する研究は少ない。さらに、日本留学を経て大陸に渡った台湾画家に関しては、個々の画業の一部として考察した著作例はあるが、彼らの活動が終戦後定められた境界線を越えたため、戦後、地域ごとに書かれた美術史の視点からは語りにくい面があった。この問題は台湾出身画家に限らず、日本から台湾に移り住んで活躍していた画家および当時ほかの漢字文化圏地域出身の移動する画家にも共通している。従って、これらの地域における近代美術形成の根本的な問題を議論するにあたっては、「移動する画家」たちの活動を通して、従来の国別美術史の境界を超えてより広い枠組みの中でなされる必要性と可能性が生じたのである。

こうした研究現況に鑑みて、本研究は戦前の「移動する画家」を新たな研究課題とし、戦前の移動する台湾関係の画家たちの画業を、戦後形成された美術史観からのア

プローチでなく、当時の東アジア（東洋）という時空に置き直し、彼らが果たした美術史的役割を明らかにした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、「移動する画家」という課題を提示し、歴史的に果たした役割の重要性が遅れて認知された台湾関係の画家たちの画業を、創作当時のコンテキストで正しく位置づけることである。具体的には、以下の諸項目を目的とする。

- (1) 従来の戦後に定められた政治境界に縛られている歴史観からの論考を、一次資料に基づいてクリティカルに検討、修正し、
- (2) 移動する台湾関係の画家を地域間美術接触の触媒として彼らを取り巻く環境および関連作品を比較し、
- (3) 主題である台湾関係の画家たちの画業を生み出した「東アジア（東洋）」という枠組みで、巨視的に彼らの歴史的な位置づけを呈示して公表する。

3. 研究の方法

本研究は以下の三点を中心に調査・考察を行った。

- (1) 1930年代までの、台湾画家が深く関わった、中国洋画界における伝統重視の傾向と日本画壇における「東洋」回帰の流れとの関係、
- (2) 台湾出身画家が中国で行った美術活動と日本画壇との関係および彼らの美術史的な位置づけ、
- (3) 台湾関係の日本出身画家の代表として、台湾を第二の故郷とし、台湾近代美術の形成に深く関わった塩月桃甫の美術史的な位置づけ、である。

美術作品の実見調査と一次資料の調査、収集、閲覧と複製、および関係者の聞き取り調査を通して、日本、中国、台湾における様式や画題を比較し、その相互関係を検証した。具体的には、移動する画家たちの

足跡を追って、台湾、中国、日本を中心に一次資料を調査し、現地の研究者たちとの交流を通して知見を得た。画家たちの出身地、活躍地における調査を行ったほか、留学生たちを育んだ1910-30年代の日本画壇に関係する一次資料を精査し、彼らの画業との関連性を検証した。

調査にあたっては、台湾の顔娟英氏（中央研究院研究員）や中国の蔡涛氏（広州美術学院准教授）、莫小也氏（元 浙江理工大学教授）から助言を得た。後小路雅弘氏（九州大学教授）の協力で、日中台関係に限らず、帝国日本と関わりがあったアジア地域全体の課題と比較することにより相対化する視点を研究に取り入れた。また、現代および古典漢文関係資料の収集、検証と和訳に関しては中国文学専門の甲斐勝二氏（福岡大学教授）および間ふさ子氏（福岡大学教授）から助力を得て、共同で関連資料の訳注をし、刊行した。蒐集整理分析した研究調査の結果を国内外の学会で開示し、さらに国際研究集会を主催した。多方面からの論議を参照しつつ研究調査を進め、その成果を学術誌および図書、論文集により公表した。

4. 研究成果

以上の目的・方法に基づいて研究を行なった結果、以下の成果を得た。

(1) 発見した一次資料に基づき、戦後特有の状況で形成された美術史観をクリティカルに検討し、従来の国別美術史の境界を超えた創作当時のコンテクストの中で、戦前台湾関係の移動する画家たち（劉錦堂、陳澄波、王逸雲、塩月桃甫を中心に）の美術史的位置付けを明らかにした。

(2) 台湾博物館の倉庫で眠っていた作者・画題不明とされてきた絵画一点が、塩月桃甫が1923年に制作した作品であることを研究調査で判明し、その結果を学術誌で開示し、作品の展覧会での初披露を果たした。

当作品の存在は戦後忘れ去られていたが、当時皇太子であった裕仁親王（昭和天皇）の台湾行幸のために制作され、台湾博物館でそれを拝観いただいた記述のある、重要な作品であった。作品を取り巻く政治社会環境の変化に翻弄された重要作品の一例といえるだろう。塩月の作品に深刻な散逸問題があることに加えて、現存の台湾美術作品全般においても1920年代前半の作品が少ないため、本発見により形成初期の台湾近代美術研究に新たな光が射したのである。

(3) 研究調査は台湾総督府の影響範囲におかれた厦門出身の画家たちにも及んだ。台湾総督府が設置した旭瀛書院卒、戦後台湾に移住した王逸雲とその画友、厦門美術学校および南洋美術学校（シンガポール）の創立者の林学大である。彼らを通して、移動する画家が美術の伝播と受容に果たした役割を検証し、その成果を一篇の論文として学術誌で公表した。

(4) 研究成果の総まとめとして、本研究最終年度に福岡市にて、国際研究集会「移動する画家と東アジア近代美術の形成」を主催、開催した。台湾関係の画家たちの創作活動を、当時彼らと共通な背景を持つ漢字文化圏の他地域の「移動する画家」の創作活動と比較考察するために、国内外の第一線で活躍する研究者により論文10篇が発表された。代表者は基調報告および研究発表を行った。近代東アジアという枠組みの中で、「移動する画家」たちが各地域の美術の形成や展開に果たした役割を明らかにし、その成果を一冊の論文集にまとめて公表した。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 6 件）

① Jessica Tsaiji Lyu-Hada "Cultural Localization vis-a-vis Delocalization:

Chinese Singaporean Artists of the 1950's," 『福岡大学人文論叢』49-4(2018)、1-13、査読無。

② Jessica Tsaiji Lyu-Hada [別名:呂采○(○は草冠に止)、羽田ジェシカ] *The Issues of Regionality and Universality: Centering on the Art of Lim Hak Tai,* " *Journal of Art Studies*(『芸術学研究』) 30(2017) 1-56、査読有。

③ Jessica Tsaiji Lyu-Hada [別名:呂采○(○は草冠に止)、羽田ジェシカ]、"The Newly Discovered Painting of Shiotsuki Toho in the Collection of National Taiwan Museum: the Historical Significance of the Image of Formosan People in the 1920s," 『国立台湾博物館学刊』72-2(2017)、39-58、査読有。

④ 羽田ジェシカ、甲斐勝二、間ふさ子、「陳師曾(衡恪)「文人画的価値」訳注」、『福岡大学人文論叢』48-4(2017)1381-1398、査読無。

⑤ 植野健造「青木繁《かるた》《漢詩かるた》について」『公益財団法人日本習字教育財団 学術研究助成成果論文集』3(2017)、177-219、査読無。

⑥ 甲斐勝二、間ふさ子、霍四通、羽田ジェシカほか二名「陳望道『修辞学発凡』第六篇 積極修辞二：乙類 意境上の修辞」15(2016)、69-89。

[学会発表] (計 8 件)

① Jessica Tsaiji LYU-HADA (羽田ジェシカ) ,"Colonial Taiwanese Art from East Asian Perspectives: Focusing on the Art of Lin Yu-shan," International Symposium *Expanding Perspectives: Modernity of Local Art*, Busan Museum of Art, Dec 21-22, 2017.

② 羽田ジェシカ、「基調報告」、国際コロキウム「移動する画家と東アジア近代美術の形成」、福岡アジア美術館、2017年11月18日。

③ 羽田ジェシカ、「近代東アジアの「移動する画家」——劉錦堂(王悦之)を例に」、国際コロキウム「移動する画家と東アジア近代美術の形成」、福岡アジア美術館、2017年11月18日。

④ 後小路雅弘「アジア美術のゴーギャンズム」、国際コロキウム「移動する画家と東アジア近代美術の形成」、福岡アジア美術館、2017年11月18日。

⑤ Jessica Tsaiji LYU-HADA (羽田ジェシカ) ,"Cultural Localization vis-a-vis Delocalization: Chinese Singaporean Artists of the 1950's," AAS-in-Asia, Korea University, Seoul, June 24-27, 2017.

⑥ 羽田ジェシカ「劉錦堂の《七夕図》と《台湾遺民図》—東アジア美術の視座から—」、美術史学会西支部例会、九州大学、2016年1月23日。

⑦ Jessica Tsaiji LYU-HADA (羽田ジェシカ) ,"Ocean as a Bridge: The Art of Wang Yi-yun, Chen Cheng-po and Their Friends," AAS-in-Asia, Academia Sinica, Taipei, June 22-24, 2015.

⑧ 羽田ジェシカ「文人伝統と近代美術—二十世紀初頭の厦門と台湾出身画家たちの交流を中心に」、九州中国学会、九州大学、2015年5月16-17日。

[図書] (計 3 件)

① Busan Museum of Art, *Expanded Perspectives: Embracing the Contemporary in Regional Art*, Busan Museum of Art, 2017, 63-78 in 321 pages.

② 羽田ジェシカ (編集・著作) 『「移動する画家と東アジア近代美術の形成」国際コロキウム論文集』、城島印刷株式会社、2017年、103頁。

③ 岩佐昌暲、李怡、中里見敬 (編集) 『*Zhuozide Tiaowu: 清末民初赴日中国留学生与中国现代文学论文集*』、花木蘭文化出版社、2016年、353頁中、267-279頁。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

羽田 ジェシカ

(Jessica Tsaiji LYU-HADA)

別名: 呂采〇[〇は草冠に止]

福岡大学・人文学部・非常勤講師

研究者番号: 60719102

(2) 連携研究者

後小路 雅弘 (Ushiroshoji Masahiro)

九州大学 教授

研究者番号: 50359931

甲斐 勝二 (Kai Katsuji)

福岡大学 教授

研究者番号: **60169373**

間 ふさ子 (Aida Fusako)

福岡大学 教授

研究者番号: 50412565

植野 健造 (Ueno Kenzo)

福岡大学 教授

研究者番号: **70614337**

(3) 研究協力者

顔 娟英 (Yen Chuan-ying)

中央研究院 研究員 (台湾)

呉 方正 (Wu Fang-cheng)

国立中央大学 教授 (台湾)

Chiu Han-ni

国立台湾大学 (台湾)

Assistant professor

蔡 家丘 (Tsai Chia-chiu)

国立台湾師範大学 (台湾)

Assistant professor

金 正善 (Kim Jungsun)

東亜大学校 (韓国)

Assistant professor

莫 小也 (Mo Xiaoye)

浙江理工大学

元 教授 (中国)

蔡 涛 (Cai Tao)

広州美術学院 准教授 (中国)